令和6年度 第1回
刈谷市障害者計画・刈谷市障害福祉計画・刈谷市障害児福祉計画
懇話会議事録

日 時 令和6年10月18日(金) 午後1時30分～午後3時
場 所 刈谷市産業振興センター 6階604会議室
委 員 (敬称略)

<出席者> 14名

愛知教育大学 名誉教授	都 築 繁 幸
刈谷医師会 副会長	富 安 齊
刈谷市歯科医師会 副会長	加 藤 佳 典
刈谷市薬剤師会 理事	福 島 恵 子
刈谷市民生委員・児童委員連絡協議会 副会長	中 野 カズヨ
刈谷市ボランティア連絡協議会 顧問	富 田 宜 弘
刈谷市社会福祉協議会 常務理事	宮 田 俊 哉
社会福祉法人観寿々会 施設長	橋 口 磨理子
刈谷市障害者支援センター 所長	相 澤 道 子
刈谷市身体障害者福祉協会 会長	石 川 恵美子
刈谷市肢体不自由児・者父母の会 会長	大 谷 悟
刈谷手をつなぐ育成会 会長	篠 原 幸 弘
刈谷地域精神障害者家族会 会長	長谷川 宏
刈谷市教育委員会 委員	鶴 田 英 孝

<欠席者> 4名

刈谷地区心身障害児を守る会 副会長	榎 島 はつき
刈谷児童相談センター 主査	鈴 木 雄 二
衣浦東部保健所 健康支援課長	山 本 由美子
刈谷公共職業安定所 所長	大久保 みどり

(事務局)

福祉健康部 部長	加藤直樹
〃 福祉総務課 課長	加藤幹雄
〃 〃 課長補佐	中村智
〃 〃 障害企画係長	丹羽康人
〃 〃 主任主査	澤田知秀
〃 〃 主事	宇野美奈子

1 開会

資料の確認

次第

資料 1 - 1 刈谷市障害者計画、刈谷市障害福祉計画・刈谷市障害児福祉計画

資料 1 - 2 刈谷市障害者計画の進捗状況

資料 2 刈谷市障害者計画・第 7 期刈谷市障害福祉計画・第 3 期刈谷市障害児福祉計画（概要版）

2 会長選出

都築委員が会長に選出され、承認を得る。

3 議事

議題（1）刈谷市障害者計画、第 6 期刈谷市障害福祉計画・第 2 期刈谷市障害児福祉計画の評価について

— 資料 1 - 1 及び資料 1 - 2 に基づき事務局より説明 —

（会 長） ただ今の説明に対して、ご意見・ご質問等あるか。

（委 員） 就労継続支援 A 型及び就労継続支援 B 型の事業所は、当事者が自立した生活を送るために必要なサービスである。事業者が増えることは良いことだが、令和 6 年度の報酬改定により、採算性が悪くなり、廃業する事業所が増えたというニュースや新聞記事をみた。刈谷市の現状についてはいかがか。

（事務局） 現状、市内の就労継続支援 A 型及び就労継続支援 B 型の事業所の廃業は聞いていない。

- (委員) 報酬改定により、報酬単価が大きく変わった。特に就労継続支援A型の影響は大きく、苦しくなったという事業所の声を聞く。一方で、就労継続支援B型は報酬が上がったため、A型からB型に移行している事業所が全国的に多いと聞いている。雇用率や平均賃金の上昇等の影響もあり、A型事業所は厳しい状況だと考える。刈谷市においても賃金が上がっている状況であり、賃金が上げれば上がるほど雇用契約を結ぶA型事業所には厳しい状況となる。
- また、B型事業所においても利用者が増えれば良いというものではなく、平均工賃によって報酬単価が変わるため、難しい部分がある。
- (会長) 資料1-1の3ページ(5)障害福祉サービス・障害児通所支援等の給付費について、6年間で1.9倍となっており、刈谷市の特徴とも言える。福祉サービスの充実化がうかがえる数字であるが、何かご意見等はないか。
- (委員) 全体についての質問である。「ノーマライゼーション」という言葉が出てくるが、刈谷市が目指している「ノーマライゼーション」や「社会」は何かを説明いただきたい。
- (事務局) 障害者計画において基本理念としている「ノーマライゼーション」は、障害のあるなしにかかわらず、地域や家庭で普通の暮らしができる社会をめざすものである。
- また、「共に暮らせるまち 刈谷」をめざす姿としており、すべての市民が人格と個性を尊重されるまちづくりを進め、障害のあるなしにかかわらずいきいきと働き、あらゆる活動に参加でき、安心して暮らせる刈谷市をつくることとしている。
- (委員) 計画の中に健常者の方が障害を持った時にどうするのか、障害の予防や対策、ハード面でのまちづくり等の記載があると良いと考える。
- (会長) 「ノーマライゼーション」は大きな理念であり、実現に向けた活動を具体化したものが本計画の取組である。それぞれの取組について実行できているか、進捗状況を市民目線で判断・管理していただくのが懇話会の目的である。
- 例えば、給付費が6年間で1.9倍となっているが、委員の感覚として充実化しているという印象があるのか。グループホームの利用者数が22人の設定に対し、43人の実績であり、地域での生活が進んでいると考えられるが、現場ではどうなのか等、ご意見をいただきたい。
- (委員) 「ノーマライゼーション」の理念は素晴らしいものであるが、日々の支援の中で、当事者がどれほど実感を持って暮らせているのかは分からない。支援にあたっての方の意見を聴くことはできるが、当事者全体としての声を聞くことも必要だと考える。
- (会長) 計画作成の際には、全体として当事者や事業所の意見を聴いているが、単年度ごとに調査を行うのは難しい。アンケート等は計画期間である3年や6年単位での実施になるので、支援者の立場として直近での当事者の意見を教えていただけると有難い。

- (委 員) 資料にはいろいろな数字が記載されており、数値があがっていることも分かるが、目に見える成果はうかがえない。もう少し具体的に分かりやすく説明があると良い。
- (委 員) 資料1-1の8ページ「成果目標」の1「福祉施設の入所者の地域生活への移行」の欄に、令和5年度末の施設入所者数を77人とするとの記載がある。施設入所の需要はあると思うが、刈谷市としては、施設入所者数は77人を超えると困るということなのか。
- (事務局) 困るということではなく、77人という数字は施設入所者の地域生活への移行という点での目標値である。なるべく地域の中でサービスを充実させ、施設入所から地域生活への移行を推進していくという考えのもと、国の基準に照らし合わせ、刈谷市における施設入所者数を削減する目標値を定めたものである。
- (委 員) 介護の現場は職員の離職率が高いと聞く。慣れ親しんだ職員がいなくなり、新しい職員にも引き継ぎが行われないことで、一番影響を受けるのは利用者である。介護職員の待遇を改善しながら職場環境も良くしていくということは施設の運営側が行っていかねばならないと思う。市の職員が施設を視察して指導することは難しいかも知れないが、もう少し介護の現場を助けて欲しいと強く感じている。
- (会 長) ただいまの意見においては、資料1-1の11ページでも人材確保の問題として指摘されている。今後の動向を見ていくことは懇話会の趣旨でもあるため、今後も注視していただきたい。
- では、続いて議題(2)刈谷市障害者計画・第7期刈谷市障害福祉計画・第3期刈谷市障害児福祉計画について、事務局より説明をお願いします。

議題(2) 刈谷市障害者計画、第7期刈谷市障害福祉計画・第3期刈谷市障害児福祉計画について

— 資料2に基づき事務局より説明 —

- (会 長) ただ今の説明に対して、ご意見・ご質問等あるか。
- (委 員) 資料2の2ページ4に、「障害のある人が安心・安全に暮らせるまちづくり」と記載があり、親亡き後を支えるための多様な暮らしとして「一人暮らし」がある。3障害全てにおいて当事者の一人暮らしは重要であると考えているが、自分の実感としては、障害者の8割が家族と一緒に生活をしている状況である。一緒に生活しているからこそ、当事者の親は自分たちが亡き後のことを心配している。親が元気なうちに当事者が自立した生活を送れるような施策が必要ではないかと考える。

4 ページの 2 に精神障害のある人の地域定着支援の利用者数の目標があるが、親亡き後の問題は精神障害者だけの問題ではないと考える。目標値を 1 人としているが、少なすぎると感じる。この数値については、注視が必要である。

(会 長) 地域包括ケアシステムは精神障害だけではなく、他の障害についても推進しているものであるが、精神障害への対応が国全体として遅れていたという経緯があるため、遅れている部分を特に推進していくために「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」という主題をあげているものである。

(委 員) 資料 1－2 の進捗状況の評価について、サービス等を提供する側の自己評価になっていないか。当事者や親の意見を考慮せず、自己満足の評価になってはいけなと考える。「できていない」や「ややできていない」という評価があるのが自然ではないか。どういう基準で判断しているか疑問を感じる。また、会議において丁寧ではあるが、事務局の説明が非常に長い状況である。資料は事前に配布されているので、事務局側の説明は最低限にして、委員からの意見を聞く時間を確保した方が良いのではないか。

(会 長) 今回の会議の議事進行については、過去の経緯より詳細な説明を事務局に依頼したところである。一方で、次回以降の会議は、委員の意見を配慮し、議事進行を決めていきたい。

(委 員) 教育現場での所感であるが、通級指導教室及び支援学級での体制は、非常に充実しており、ほぼマンツーマンでの体制である。現場では、根気強く教育に取り組んでいる状況がうかがえる。コロナ禍において実施を見送っていた子どもたち同士の交流も再開されており、インクルーシブ教育への取組も進んでいると感じる。支援学級での合同運動会を情報端末でつなぐ取組をはじめ電子書籍の充実等、本市は、他市と比較し、漸進的に取り組んでいると感じる。要望事項ではあるが、障害者計画や各施策について、一般の方への周知が進んでいないと感じるため、情報発信に取り組んでいただきたい。

(委 員) 昨年度の会議で障害のある方ご本人やご家族との交流が希薄になっていると発言させていただいた。その影響もあってか、今年度は家庭への訪問を希望する方のリストを提供いただいた。今後、家庭への訪問を行い、交流の機会を設けるとともに、民生委員は、地域と関連機関とのパイプ役となるため、皆さんのご意見やご助言等、ご協力をいただきたい。

(委 員) 資料 1－2 については、他の委員と同じく、評価方法の定義があると分かりやすいと感じた。

地域生活への移行者数について、親亡き後を考えると地域への移行は重要なことであるが、無理に移行に繋げて心配になるケースがある。移行に関しては、無理せず、状況を見極めて実施をしてほしいと考える。

(委 員) 令和 4 年度から障害者計画懇話会に参加しており親亡き後の課題について毎年話をしている。今回の計画においても親亡き後の課題はあるが具体的な取組が

分からない。親亡き後を含め、市が取り組むべき課題について、現場や当事者の意見を参考に優先順位をつけて取り組んでいければ良いと考える。

(委 員) 資料2の2ページ重点課題の5「相談支援の充実」の箇所に記載されている「世帯単位での包括的な相談支援」に非常に期待している。高齢者の場合は、包括支援センターで個別事案に対応しており、さらに基幹型地域包括支援センターもでき、手厚い対応がされている。一方で、困りごとを抱えている方が、色々な機関で相談を行った結果、対応できる場所がなく諦めてしまうということがある。これは、対応した機関や担当が悪いのではなく、行政福祉サービスの制度上、条件に当てはまった人しか救えないからである。条件に漏れてはいるが、本当に困っている人が世帯単位で、身近な方々と連携をとって相談できる体制ができれば良いと考える。

(委 員) 成人してから精神疾患になった方や高齢者より手前の年代で精神疾患になった方、生きづらさを抱えている方やひきこもりの方の相談先・受け入れ先の必要性を感じている。また、その子どもを抱える親の相談先についての支援も必要だと考えている。

(会 長) 本会議は、刈谷市障害者計画と刈谷市障害福祉計画・刈谷市障害児福祉計画の進捗管理を行うために設置するものであり、委員の皆様は市民を代表して会議に参加いただいている。委員の意見は次期計画にも反映しており、進捗についても積極的なご意見をいただきたい。次回以降の会議についても建設的・積極的な意見をお願いしたい。
では、議題(2)については終了とする。

(部 長) 本日はたくさんの意見をいただき、感謝する。本計画に基づいて福祉施策を推進してきたが、障害のある人の人数が増え、高齢化・重度化が進む中で、求められるニーズは多岐にわたっており、今後も時機をとらえた施策を展開する必要性を強く認識している。今後も委員の皆様の積極的なご意見・ご協力をいただくようお願いする。

(事務局) 今年度の懇話会は本日の1回の開催である。来年度についても進捗管理を行うため、年1回の開催を予定している。来年度も引き続きご協力をお願いする。

(会 長) 以上で本日の懇話会を終了する。ご協力ありがとうございました。

閉会